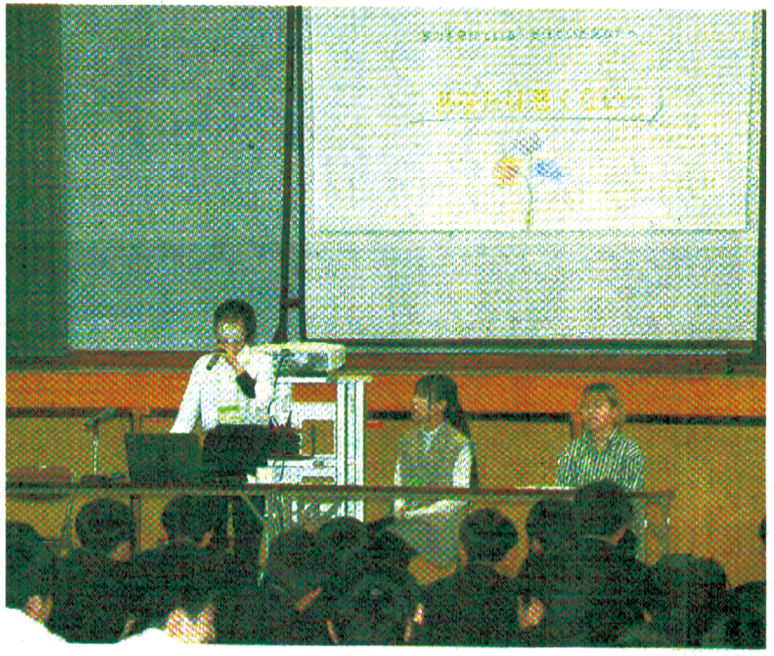
デートDV 知って防ごう

高知工業高 県大生3人が講演



デートDVについて話す高知県立大生（高知市桟橋通2丁目の高知工業高校）

交際相手への暴力「デートDV」を防ごうと21日、高知県立大学生3人が高知工業高校で講演し、3年生約270人に「嫌なことは嫌と言っていい」と訴えた。

こうち男女共同参画センター「ソーレ」と同大学の出前講座。授業などでデートDVについて学んだ社会福祉学部3年の中川詩莉（うたり）さん(21)、2年の森岡ふみさん(21)さん、石川紗羅さん(20)が講師を務めた。

デートDVには物を投げるなどの身体的暴力、ばかにするなどの精神的暴力、避妊に協力しないといった性的暴力などがある。

3人は同高3年生への事前アンケートで、38%が位置情報を共有するアプリを交際相手や友人と使ったことがあったと紹介し、「行動を制限することもデートDV。アプリを使うことは悪くないが、何のために使っているか考えて」と呼び掛けた。

また、性的暴力を行わないためには相手の同意が重要と説明。相手が寝ている時や飲酒している時は「同意をとれたとは言えない」と強調した。また、友人や家族を何かに誘ったり頼んだりする時に同意を求めることも「相手を尊重することになる」と、日常的に意識するよう呼び掛けた。

講座を聞いた土居健人さん(18)は「自分がいいと思っていても相手がうれしいとは限らない。普段の言葉遣いが癖になるき、弟に『風呂ためちょって』と言う時も『ためちょってくれん？』と言うことにする」と話していた。（二瓶満瑠）

2024年2月22日（木） 高知新聞掲載記事